

川崎市子ども会連盟 ボーイスカウト川崎地区協議会 川崎市青少年育成連盟 ガールスカウト川崎市連絡会 川崎海洋少年団

## 発見。ふれあい。家族。

国際家族年記念講演会  
これからの家族を考える  
男と女の共同参加

今年、国際連合が定めた「国際家族年」。世の中が激しく変動していく時代、家族について考えてみようという呼びかけです。  
育成連盟では、青少年育成の基盤である「家族」について、みんなで考えるため、去る九月八日、日本経済新聞社刊人家庭部長・鹿嶋敬氏を迎え講演会を開きました。



講師 鹿嶋敬氏  
【日本経済新聞社 人家庭部長】

身近にある豊富な話題と鋭い先見性、そしてユーモア溢れるたくみな話ぶりに、二百人を越える聴衆はうなずきほほえみながら聞き入りました。

子どもの権利条約が今年の五月に発効しました。  
二十世紀は「子どもの世紀」と言われながら、世界中には不幸な子ども達があふれ、いま現在も、戦禍や飢え、過酷な労働に直面している子ども達の姿が、連日テレビの画面に映しだされています。  
さて、川崎の子ども達。川崎の子ども達は世界の不幸な子ども達の対極に立っているのではないのでしょうか。安全で豊かに、自由を満喫する子ども達です。

しかし、最近の子ども達を見て残念に思うことがあります。それは、川崎には輝く瞳と天使のような笑顔を持った子ども達が数多くいるのですが、時として、笑顔が忘れ、疲れた表情の子ども達を見かける機会が多くなったことです。  
子ども達は、幼稚園、小学校、中学校と成長するに従って社会化して行きますが、その社会化の過程

### 子どもの笑顔

子どもの権利条約

子ども達は日々成長しています。喜怒哀楽、一言一動しながら個性を培い成長しているのです。子ども達が成長過程にある時こそ、人間としての感性を育み、思いやり

## 国際交流 ボルチモア市 友好を果たして

ガールスカウト



写真一姉妹都市委員会の Mr. Miyasaki, ガールスカウトのリーダー De Monteのお宅に招かれ交流。

### 友好を果たして

交流訪問団に加わった佐野美幸さん(31歳)は、「憧れのアメリカの旅。期待と不安を抱きながら」と書き出して、次のような報告を寄せてくれた。  
時差になやまされ、辞書を片手に英会話でパニック状態になったこと。言葉は通じなくても、表情や肌の温かさなどで通じあじわい知りあうことができた感激に涙したこと。そして、「私たちは改めて国際交流の意義の深さと、私たちが得た経験の尊さを知りました。自国のことのみにとらわれず、世界に目を向け、知識を増やしていきたいと思う意欲も湧いてきました。」とまとめ、再会への希望を語っています。  
この素晴らしい成果が、今後のスカウト活動に光をあて、発展のエネルギーとなることでしょう。

ガールスカウト、芦垣秀代会長引率の訪問団は、友好都市交流のためボルチモア市をたずね、四日三日、無事帰国した。  
晴れ晴れとした笑顔に交流の充実感と目的達成の喜びがあふれていた。



市議会議場で「川崎子ども会議」  
十月三十一日には市議会議場で「川崎子ども会議」が開かれる。市議会と全く同じように、市長ほか行政関係者が出席。議長も現職議長がとつと、議席には「子ども議員」が着席するという議場風景を想像すると、微笑しい。  
「小さな市民」が身近な暮らしや町を見つめ、21世紀の川崎を考えるために市長、行政当局と対話するのだが、これが更に発展的、継続的行事となるよう望みたい。

## 川崎市制70周年記念 子ども会議と川崎子ども議会

### 交流十周年記念交流会

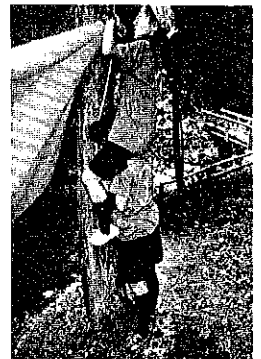


七月二四日米国ボルチモアより、十七名のスカウトとリーダーが来日、川崎のボーイスカウトと交流十周年記念行事を開催。  
市内の家庭に大歓迎のホーム・ステイ、山中湖のキャンプ、富士登山等を含め、更に友好を深めた。八月五日太陽第一幼稚園に於て、サヨナラパーティーを催し、盛大の中に「ボルチモアでまた会おう」を約束し、六日成田より帰米された。

### テーマ

私たちのまち「川崎」の二十一世紀を考える  
川崎市では市制70周年記念事業として「子ども会議」と「川崎子ども議会」を開催し、行政や議会についての関心を高めることにも、子どもの意見を行政に反映させようとする試みを展開している。  
この会議には、学校代表とともに子ども会連盟も代表を送り、地域活動体験をもとに意見を述べる。行政区ごとに開かれる「子ども

# 自然の中から新発見!! ガールスカウト50人の大家族キャンプ



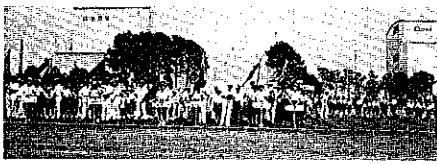
「自然の中から新発見! 笑顔で実行」をテーマに、50名の大家族が山梨県道志村で恒例の夏季回キャンプ。八月四日から七日まで活動を展開した。

第一日。テント設置では、小学4年生は6年生の背にのぼってテント張り(写真)。縦割りパトロールで上手な役割分担と協力が作業をはかどらせている。夕食後は自然観察。五感をとぎすませると、暗やみでも物を見つけ、耳は様々な音をキャッチし、靴底からは土の柔らかい感触が伝わってくる。夜空には満天の星がきらめく。

山の上朝日がさんさんお早ようさん さやか  
雲のかけ北海道の地図みたい 佳子  
青空に浮かんで白いうるこ雲 詩織  
たのしいな冷たい水の川あそび やよい  
川あそび足を入れたらキャ冷めた 幸  
川は人の大事な神の宝物 まい子  
緑たち自然のめぐみありがとう 亜美  
こうした感性を大切に育てていきたいと思  
っている。

## 清水に集う海の子

### 海洋少年団 関東・東京地区大会



猛暑の八月六七日、静岡県清水市に約一千名もの海の子が集まり、海員学校を宿舎として、第一回関東・東京地区連盟大会が開催されました。

川崎海洋少年団員も、多少疲れはしたものの元気いっぱいでした。

開会式では、暑いので倒れる子が何人かいましたが、ほとんどが

一年生くらいの小さい子で、みんな汗だくでした。そのあと海上保安庁の巡視船に乗りまわしたのが、涼しいどころか吹き飛ばされそうに強い風でした。夕食は船上パーベキューでもともおいしかったです。バスで宿舎についた時は、立っているのがやっとでした。

学校の訓練船で体験航海をしました。クレーターのきいた家に早く帰りたいと思いました。

## 日本ジャンボリー開催



八月三日から五日間、大分県の久住高原で「蒼き美しき草原」をテーマに、第十一回日本ジャンボリーが開催された。日本、世界の三万五千人

余のスカウトが大草原に会した。川崎、神奈川からは大型バス三十八台に分乗、四十八時間の往復の旅。

少年達は、思い出と貴重な体験を胸に無事帰省。成長の姿も頼もしい。

## 参加事業記念70周年 市制70周年 町の大壁画



宮前区子連では新しい道路の壁面を生かし、交通安全と美化を兼ねて縦三メートル、横五メートルの大壁画を完成させ、町の人々に喜ばれている。完成まで十一日間。この夏の暑さをのり越えて、役員と子ども達が力を合わせた作品の完成。役員の方々は苦労を忘れて、「ありがとう、子どもたち」と。

## プログラム・県外交流研修

九月から、育成連盟加盟四団体のジュニアリーダーとリーダーを志す一般中学生二十三名による指導プログラム・県外交流研修が行われている。八回のプログラムのうち、前半は「川崎を振り返る」

## 子ども会八ヶ岳合宿

毎年実施される川子連八ヶ岳合宿も無事終了した。各区がバス三台で往復、計一千名をこす大合宿だ。各区ごとに工夫されたプログラムで年々充実していき、子ども達特異の行事となっている。



## 傑作そろそろ「かかしコンクール」

第11回麻生区子連かかしコンクールは、九月三日、黒川のタンポで開かれた。18単会から20体の手づくりかかしが出品された。例年を上回る観客も笑顔満面。岡上子ども会の「武蔵丸」が区子連長賞を受賞した。

## 優勝

- 小学生の部 (第49回) 上作延こども会 (高津区)
- 中学生の部 (第35回) 県営有馬こども会 (宮前区)

## 川崎市制70周年記念 子ども会野球大会

子ども会の組織・運営も、社会変化に伴う様々な問題点が指摘されるが、英知を集めたこの協議会で論議が注目をされる。

## 編集後記

各団が猛暑の中での活動記事を沢山寄せて頂きました。国際家族年に相応しい、ふれあいの寄稿もあり皆様のご協力で感謝致します。次回、平成七年三月一日発行「標記」テーマ通り、ふれあい、そして発見、皆様の感じた事、体験等をお寄せ下さい。思い出す育連だよりと成る事を願っております。

(野田 敬)

## ガールスカウト 全国レンジャーキャンプ

私達32団の高校生全員は夏休みに、自分達の手によって全てを作りあげる全国レンジャーキャンプに参加しました。長野の戸隠にあるガールスカウトキャンプ場での日程が決まっているだけで、往復切符からキャンプ中のプログラムまで自分達の手によくつく仲間が集まりました。大人のリーダーとは、ほとんどキャンプ中関わることも無く、渡される食料で献立を考え、自分達で「ヤミナベパーティー」を開いたりお菓子を配ったりして、他の都道府県のスカウトと交流会をしました。

(GS32団 滝澤麻子)